

# 「演習事例」

基礎研修B日程

令和3年10月27日（水）・28日（木）



★研修では、本事例を活用し演習を行います。

★本事例は、本研修会のために中央法規出版「障害のある子の支援計画作成事例集」より  
抜粋したものです。



# 現状の支援を維持しつつ、 本人のストレングスを活かして いきたいケース

## ① プロフィール（生活歴・病歴等）

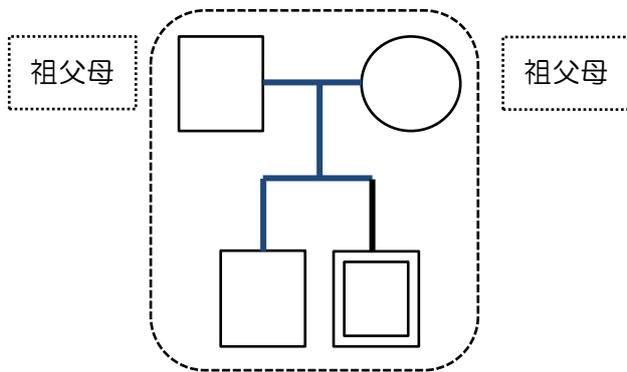
氏名：石見カオル君（男児）

年齢：8歳

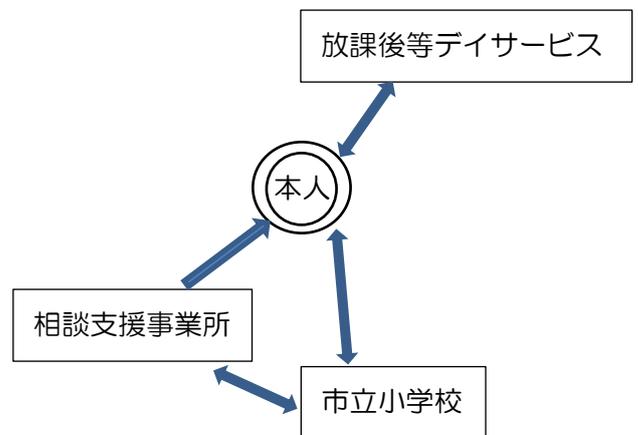
障害等：自閉症スペクトラム、療育手帳（中度）

家族構成：両親と小学校6年生の兄（12歳）との4人家族

### ●家族構成



### ●社会関係図



### 生活歴：

養育には熱心で、子ども中心に家庭生活を送っている。話をしてみると、両親ともに明快な口調で、障害の状態も受け止め、前向きに日々を生活していると感じることができた。児童発達支援センターを卒園し、地元の特別支援学級に籍を置き、休むことなく学校に通っている。両親は就労していることもあり、今回が初めての支援利用計画の作成となるが、すでに平日は毎日のように放課後等デイサービスを利用している。現状のサービス利用については満足しており、母親は特に不安なことはないと言っている。

父親方の祖父母は県内に在住し（車で1時間くらいのところ）、父親とカオル君は毎月2、3回ほど訪れている。母親方の祖父母は県外在住で、母親の愚痴をしっかり受け止めている様子である。

## ② 初回面接時の印象や感想

本人とは家の中に入っても、目が合うことがなく、おもちゃのレールを床に広げて、一人で遊んでいた。声をかけると時折顔は上げるが、自分のペースで黙々と遊んでいた。しばらく母親と話した後で、本人に近づき、「新幹線カッコいいね。これはドクターイエロー！これはN700系！……」とボソボソこちらが言っていると、「これは？」とカオル君が手に持っているものを差し出してきた。事前に調べて学習していたので、「500系だね～！」と言うと、笑顔を見せてくれた。調子に乗って「ドクターイエローは925形10番系だね。」と言うと、嬉しそうに「10番系！」と答えてくれた。あとは、印刷してきた新幹線の紙の模型作りに誘い、一緒に作って過ごした。



子どもの関係が思いのほかうまくとれたこともあり、母親とは、和やかな雰囲気でお話をすることができた。今は安定した暮らしを送っているが、幼少時はカオル君が夜中に目覚めると、当分の間泣きわめいていたこと、そのため睡眠が取れず、夫婦間でもつい愚痴の言い合いになるなど大変であったこと、二度ほど休職もしたことなどの苦労を聞かせてもらった。

学校での様子、旅行に行ったときの写真もみせてもらい、カオル君が関心のあるゲームや動画も一通りみせてもらった。学校の担任の先生のことについては、詳しく聞かせてもらったが、カオル君はその先生のことを大好きで、親子のように寄り添って校内をよく歩き回っている様子。交流学級の先生も、カオル君のことを常に気にかけ、もっと交流の授業に参加させろと、特別支援学級の先生とカオル君の取り合いになるような話も聞くことができた。

カオル君からも、電車の図鑑や写真を手渡され、初めて会ったとは思えないくらい打ち解けた表情をみせてくれた。

### ③ アセスメント（基本情報と問題分析）

基本情報に関する項目（大項目）	中項目	記入欄
1. 基本情報		氏名・生年月日・連絡先等（1. プロフィールを参照）
2. 生活の状況	生活歴	健診後のフォロー⇒地域の親子療育相談⇒児童発達支援事業所⇒就学（特別支援学級）、現在小学3年生
	家族状況	4人家族（父親、母親、兄・小学6年生）
	経済状況	父親・母親ともに就労、特別児童扶養手当受給
	居住環境	一軒家、子ども部屋はそれぞれあるが、本人はほとんどパソコンがあるリビングで過ごす。
	その他	父方祖父母は県内在住、月に2、3回父親と遊びに行く。母方の祖父母は県外在住。盆・正月には帰省している。
3. 医療の状況	病歴・障害歴	特になし
	医療機関利用状況	特になし
	医療保険	—
	その他	とにかく元気で、歯科も含めて、この何年か医者にかかることはない。
4. 福祉サービスの利用状況		放課後等デイサービス事業所を週に5～6日利用してきた。（平日は夕方。土曜日は月に2回くらい利用）
5. 健康状態	服薬管理	特になし
	食事管理	わりと何でも食べている。特に制限はない。
	障害・病気の留意点	本来ならテンションが上がりやすく、よく動き回り、生活リズムが乱れやすいところをもっているが、適切な環境により落ち着いて過ごさせている。
	その他	—

基本情報に関する項目（大項目）	中項目	記 入 欄
6. 日常生活に関する状況	ADL	歯磨きは一人で行う。着替えについても大体は一人で可能。
	移動等	一人での外出はしていないが、運動能力としては問題ない。公共交通機関など乗り物に乗ることを好んでいる。
	食事等	上手に箸を使って食べることができている。
	排泄等	一人でさっさと用を足している。
	得意・好きなこと等	電車の動画を一人でよく観ている。ジェットコースターは大好きで、プランコに乗ると自分で大きく揺らして楽しんでいる。
	その他	食後の片づけは言われずに行っている。
7. コミュニケーション能力		なかなか伝わらないときは、簡単なジェスチャー+単語を並べて伝えようとする。気に入っている同級生の子から話しかけられると、嬉しそうに返事をしている。漢字に興味があり、同学年で習う漢字の読みはできる。計算は一桁同士の足し算ならできている。
8. 社会参加や社会生活技能の状況		駅、野球観戦、交通関係の公園や科学館など、好きなところに好んで行くが、にぎやかな場所など苦手なところはなく、学校行事についても、先生に声をかけられながら、よく参加している。
9. 教育・就労に関する状況		<u>⑥特別支援学級（情緒障害児）に在籍。担任は特別支援教育に関しベテランの先生で、子どもの長所を活かした教育を重視している。カオル君の興味を引くために、作品づくり・造形活動が多く設定され、電車の絵はもちろん、さまざまな素材を使った電車づくりなどよく集中して取り組んでいる。</u>
10. 家族支援に関する状況		両親ともに養育熱心。子どものペースをよく受け止めて、関心のあることを優先させてつき合っている。兄は中学の受験のため忙しいが、本児とはむしろ遊びたがっているところはある。
11. 本人の要望・希望する暮らし		激しく体を動かして、体で感じるようなことが大好き。乗り物大好き、電車が大好き。電車の名前をよく知っている人とたくさん話したい。
12. 家族の要望・希望する暮らし		仕事が忙しいので、なかなか子どもの相手ができていないが、できるだけ楽しめるようなところには連れて行ってあげたい。家では、パソコンに向かっている時間が長いので、気にはしている。今の生活に関しては、特に不満や困ったところはない。
13. その他の留意点		父親はほぼ土、日が休み。母親の休みは不定期で、土、日は仕事のことが多い。平日が休みのときは学校まで迎えに行き、その日は放課後等デイサービスはお休みして、近くの公園に行くなど子どもの相手をしている様子。

## ④ 相談支援専門員の判断（見立て・支援の方向性）

子どもが成長していくための基盤となる家庭がしっかりしており、心配していることや、不安なことが少ない様子だった。現在通っている学校、放課後等デイサービス事業所での子どもの状態も良好で、支援ニーズやヘルプコールが出ている状態ではない。しかしながら、こうしたケースこそ、子ども本人の大きな成長が期待できる状況であり、数多くのストレンクスがあることを存分に活かし、障害があっても地域の子どもであることを追求できるケースである。



子ども自身の好きなこと、関心のあることをもっと日々の生活の中に取り入れることに努めていきたい。また、地域の中のあらゆるインフォーマルな資源を見つめ直し、子どもの居場所を一つでも見つけ、地域生活への可能性を広げていきたい。どうしても隣近所の目を気にしてしまい、あまり意識しなくなったとしても、地域から外れがちな活動の軌道修正を共に考え、家族のエンパワメントを進めていくことができるケースだとも考えていきたい。そして、子どもが主役で、家族も主役といった支援利用計画を作成し、その計画を読んで、家族はもちろん、子どもを支える人たちにおいても思わず笑みがこぼれるような、エッセンスを加えていくように努めたい。

@今のところは、容易に見つけていける子どもの関心をもっと生活の中に活かしていき、それが目に見えるような支援内容にしていくことを重視した。それは、学校と放課後等デイサービスだけであった生活から、一歩周りに目を向けていくためのものであり、そういったことも選択肢の一つになるということが、支援会議の中で確認できることを目指していきたい。

## ⑤ 情報の整理と追加情報が必要な根拠（ニーズ整理）

母親との話を重ねていくうちに、幼少時は実家の祖父母や近所のボランティアグループの方々の協力も得ながら仕事を続けていたが、心身ともに疲れて休職に至ったことを詳しく聞かせてもらった。祖父母が車で1時間ほどのところにいること、ボランティアグループの方に朝や夕方みてもらえる日があっても、確実な曜日が決まっていなかったこと、夫は毎晩遅く帰っていたことなど苦勞話を聞くことができた。

今は本人が落ち着き、毎日のように放課後等デイサービスを利用していくことで、安心して仕事ができるようになったようだ。そのため、「特別に望んでいることはない」という話ではあったが、さらに話を聞いていくと、@「パソコンに向かっている時間が多い」ことや、「遊びに連れて行けない」ということに気にしていることがわかり、

「もっとこの子のために何かしてあげたいが、時間が取れない！」という思いが聞かれた。さらにカオル君の成長は、しっかり受け止めてもおり、「本人が喜んでくれるところであれば、積極的に連れて行きたい」という気持ちも母親は強くもっていることがわかった。母親としてのそうしたさまざまな思いを受け止め、これまでどおり母親の就労も保障していきつつ、支援利用計画を作成していくことを機会に、家・学校・放課後等デイサービスといった、これまでの生活を改めて見直す必要性を感じた。

併せて、カオル君と毎週のようにお出かけに行っている父親と、中学受験を控え、塾通いに忙しいお兄ちゃん（このところ何度か塾を無断欠席していたことが発覚し、母親の子育ての関心は、今は兄に向かっている。とても優しく上手にカオル君と遊ぶことができる兄）と、一緒にカオル君のことを考え、2人の出番が増えていくことは、むしろ歓迎してもらえる可能性はあるのではないかと感じた。

## ⑥ ニーズの絞り込み・焦点化

誰かと一緒に過ごし、誰かに声をかけられることをカオル君が求めている。そして、地域の中での居場所を増やしていくために、まずどのような選択肢が地域の中にあるのか、どんなことをカオル君は求めているのかを、検討していくところから丁寧に行っていく。母親の就労を保障することも含めて、可能な範囲で多くの人からの意見を求めた。

そうした中で、カオル君の強みとして個別支援会議の中でも確認できたことは、⑥カオル君がやはり交流学級の子どもたちと過ごす時間に笑顔が多く、声もよく出ているということであった。本人にとってその時間は楽しいひとときであり、居心地よく感じていると解釈しても間違いのないのではないか。学校としては、可能な範囲でカオル君が皆と一緒に過ごす工夫をしており、それは周りの子どもたちのためにもなっていると確信できた。それだけに放課後の時間についても、工夫次第ではカオル君の思いを叶えられるやり方が見つかるのではないかと考え、さらに関係者からの意見を求めていった。一方で、カオル君の父親や兄は、カオル君に対してとても愛情をもって優しく接してきていることがさらに確認でき、父親や兄の出番については、利用計画の作成を機会として、無理のない内容で前向きになれる提案を盛り込んでいくことを重視していくことにした。

# ⑦ 障害児支援利用計画・週間計画表

## 障害児支援利用計画

利用者氏名（児童氏名）	石見カオル 君	障害支援区分		相談支援事業者名	〇〇相談支援事業所
障害福祉サービス受給者証番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	利用者負担上限額	〇〇〇円	計画作成担当者	〇〇〇〇
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		

計画作成日	〇年〇月〇日	モニタリング期間 (開始/終期年月)	6月ごと(〇年〇月)	利用者同意署名欄	印
-------	--------	-----------------------	------------	----------	---

利用者及び その家族の生活に対する意向 (希望する生活)	<p>家ではパソコンに向かっている時間が多く、もっと宿題があったら勉強する時間が多くなるのかなと思う。</p> <p>父母ともに就労しており、今後も働き続けていくうえで、必要なサービスは受けていきたい。</p> <p>特別に望んでいることはなく、仕事をしているのでこれまでのペースで生活していきたいと思っているが、本人が喜んでくれるところがあれば積極的に連れて行きたい(家族)。</p>
総合的な援助の方針	<p>ご両親ともに就労している中で、ご夫婦の連携抜群に子育ても楽しんでいらっしゃると思います。とっても明るく元気に育っているカオル君ですね。通っている学校でも、デイサービス事業所でも、他のお子さんとの接点を求めていることは多く、今の生活のペースはこのまま続けていけるといいですね。一方で、<b>⑥好奇心旺盛で、好きなことがたくさんあるカオル君</b>ですから、もっとカオル君が生き生きできるような生活について、いくつかご提案させていただきますので、カオル君とともにチャレンジしてみましょう。</p>
長期目標	<p>ご紹介した放課後子ども教室への参加については、慣れている放課後等デイサービス・Rでの生活のことを思うと何かとご不安だと思います。でも学校の交流学級でのカオル君の様子を考えると、こういった機会も大切にしたいですね。校長先生、担任の先生も時々見に行ってみるとのことです。できるだけ早く慣れるよう最善を尽くしますので、カオル君の成長に期待しましょう。</p>
短期目標	<p>カオル君がもっと喜んでくれそうな遊びや、活動の場を見つけていきましょう。今回のところは、先日見学に行った〇〇アーチェリースクールや〇〇新体操クラブにそれぞれ月に1回ペースで参加し、カオル君の表情がどう変化していくかご家族の方共々、楽しみにしていきたいと思っています。</p>

優先順位	解決すべき課題(家族及び本人の発達のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等種類・内容・量(頻度・時間)	課題解決のための家族の役割・立場	評価時期	その他留意事項
1	母親の就労の保障と、リラックスして遊べる環境の提供	学校以外の場所で関心のあることを中心に、のんびりと楽しく過ごしているカオル君です。新たに、木工の作品作りを中心の事業所でも過ごしてみましよう。	6か月後	放課後等デイサービス・R 週3日利用(月・木・金曜日に利用することもあり)。 時間帯は、主に16:00から18:00 放課後等デイサービス・M 毎週火曜日利用。時間帯は16:00から18:00	送迎はともに、それぞれの事業所が行います。その日やったことは、写真で知らせてくれるそうなので、感想等を事業所に伝えてください。	5か月後	R事業所の利用日が半減します。新たな挑戦になりますが、R事業所のスタッフもそれぞれの場所、場面に行ってくれるそうです。M事業所では木工の作品作りを中心に行う予定です。
2	家庭の中での過ごし方について	電車の写真を撮ったり、電車の動画を楽しんでいるカオル君。他にも写真の撮り方、アプリ、無料ゲームなど、楽しいものを見つけていきましょう。	6か月後	ますますパソコンに向かう時間が増えたらどうしよう?と感じられるでしょうが、時間を意識できているようです。〇〇児童発達支援事業所の〇〇さんが、鉄道大好きで、タイマーの使い方も詳しいので、ぜひ連絡して話を聞いてください。 (000-0000-0000)	〇〇さんに連絡を取ってみてください。話はしてあります。	5か月後	先日ご紹介した二つの時計を使ったら、きちんと終わることができそうですね。ですから、もっとおもしろそうなことは見つけて紹介させていただきます。残り〇分など、カウントダウンのタイマーはカオル君は苦手なので、使わないようにしましょう。

優先順位	解決すべき課題(家族及び本人の発達のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等種類・内容・量(頻度・時間)	課題解決のための家族の役割・立場	評価時期	その他留意事項
3	⑬地域の中で小学校の子ども達とふれあう機会をもつこと	先日の体験教室の参加、楽しそうでしたね。スタッフの方もよい方ばかりです。新たなカオル君の表情を、皆で楽しみましょう！	6か月後	〇〇市教育委員会主催(今年1年参加できます) 放課後子ども教室 水曜日 14:30～17:00	お母さんはこれまで通り、お仕事が終わったら家に直帰で大丈夫。とはいえ、いろいろと心配でしょうから、連絡を取り合いましょう。	5か月後	教室には担任の先生と行くことになります。迎えは、お兄ちゃんです！！G君、突然の提案、ごめんね！「お迎えに行くことがたいへんだな～」と思ったら、私にそっと教えてね！
4	体を使ったダイナミックな運動の体験	しっかりと体を動かしていくことが大好きなカオル君です。カオル君が好きな動きのある遊びをもっと増やしていきましょうね。	6か月後	〇〇新体操クラブ(第1・3土曜日の10時～12時)。 お兄ちゃんが連れて行ってくれるそうですが、よろしく願います！クラブのHコーチにはカオル君ことは詳しく話しています。帰りは、◇◇社協の方が迎えに行き、お弁当を△公民館で食べて、遠回りになる方の巡回バスに乗って帰ってくるそうです。 〇〇アーチェリースクール(第2土曜日・10時～12時) お父さんが連れて行くそうですが、よかったら一緒に挑戦してみてください。	新体操クラブには、時間があるときに見に行ってください。 アーチェリースクールにもカオル君の話はしています。見るだけでも楽しめていましたから、ゆっくり過ごせるといいですね。	5か月後	バランス感覚を必要とすることや、瞬発力を使うことなどは、カオル君の体が「欲求」する部分を満たすことになるといったアドバイスを受けました。そのことについてはしっかり勉強して、お伝えできることがありましたら報告していきます。

# 障害児支援利用計画【週間計画表】

利用者氏名(児童氏名)	石見カオル 君	障害支援区分		相談支援事業者名	〇〇相談支援事業所
障害福祉サービス受給者証番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	利用者負担上限額	〇〇〇円	計画作成担当者	〇〇〇〇
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		

計画作成日	〇年〇月〇日
-------	--------

月 火 水 木 金 土						主な日常生活上の活動
<p>6:00</p> <p>登校(お父さんかお母さんが後をついて、カオル君が校門に入るまで見守っているようです)</p> <p>8:00</p> <p>10:00</p> <p>12:00</p> <p>学校</p> <p>14:00</p> <p>16:00</p> <p>放デイ・R</p> <p>18:00</p> <p>20:00</p> <p>22:00</p> <p>0:00</p> <p>2:00</p> <p>4:00</p>						<p>★遊びについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 汗をいっぱいかいて、ダイナミックに体を動かすことが大好きなようです。これからはさらに体力はついてくると思いますので、カオル君にとって達成感も、何度でも挑戦したくなる全身を使った運動、できれば日常的に体験できるといいですね。</li> <li>● 描画では、やはり電車の絵が得意なようです。好きなものだけでもいいので、描くことはストレス発散にもなりますので、挑戦していくといいと思います。パソコンでは動画を眺めることも多いようですが、電車の写真を編集・加工していくなど、パソコンでも表現することの楽しさを味わえるといいなと思います。関心のある遊びとは、学習でもあり、将来の仕事や余暇に結びつくものです。撮った写真を印刷して、切り貼りすることも時にやっているようですが、一枚の紙にたくさんの写真を切り貼りして、カオル君の手間と、愛情をかけていけば、それは立派な芸術作品ですので、さらに試みていけるよう励ましていくことも大切だと思います。</li> </ul> <p>★外出について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ケガのないように見守っていくことは大切ですが、一方では、将来的に一人でいろいろなところに出かけられる力をもっています。電車の乗り換えでも、できるようになることでしょ。そのためには、外出時におけるおそかになること、声かけが必要なこと、苦手なことを、しっかりと把握していくことが重要です。あせらず、じっくりと見守りながら、どんなところで注意が必要かという目でふだんから様子を見ていきましょう。少しでも多くの周りの大人がカオル君の気持ちを理解したうえで、多くの社会的経験を重ねていくよう支援していくことに重点を置き続けたいものです。</li> </ul> <p>★人のかかわりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分が欲しいものを独占したり、自分のペースでかかわろうとしたりすることもあると思いますが、厳しく指導していくのではなく、どうすればマルなのかを示していくことが、カオル君には必要かと思っています。何がマルで、何がバツなのかを、二つ同時に目で確認できる示し方にも気を付けて接していきたいものです。また、少々独りよがりなことであっても、主張していくことは、成長に必要なこととして、(何でもやっていいよというわけではありませんが)まず「～したかったんだね」と受け止めてから、どうすべきかを示していくといいですね。</li> </ul>
						<p>体操新</p> <p>チェリ</p> <p>支援助動</p>
						<p>放課後子ども教室</p> <p>放課後子ども教室は、留守家庭の児童クラブとは別に、市が主催して、行っているクラブです。毎週水曜日実施。参加希望者は毎年3月に抽選で決まり、1年間参加できます。</p>
						<p>週単位以外のサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 短期入所については、冠婚葬祭のときなどに、カオル君を連れて行く気持ちのあるご両親にとって、体験させておく必要性をあまり感じません。もしご不安なことがありましたら、相談ください。</li> <li>● 学校の長期休暇など、必要に応じて放課後等デイサービスを利用していますが、お父さんとお出かけができれば、それが一番カオル君にとってはいいようです。</li> </ul>
サービス提供によって実現する生活の全体像	<p>日々の生活について、特に嫌なこともなく、お友達との時間も含めて、楽しんでいるカオル君です。過ごしているそれぞれの場所で、やりたいことを見つけ、落ち着いて過ごすこともできています。ご両親にも温かく見守られ、もてる力をしっかりと発揮しながら成長しているようです。</p> <p>ご両親もお仕事をされていますので、これまで通り放課後等デイサービスを利用しながらの生活になりますが、カオル君の居場所、楽しめるところが他にも見つかりました。またカオル君が大好きなお父さんやお兄ちゃんの出番も増えてきますので、これまで以上にカオル君が楽しめる1週間の生活になりそうです。さらに、同級生のお友達に、カオル君のことに関心が出てくるよう、一緒にいろいろと考えてみましょう。</p>					

## ⑧ 個別支援会議の内容等

### 【主な議題・内容】

#### ● 1回目の会議（利用計画作成前）

まずはコアなメンバーで、相談支援専門員の呼びかけにより、利用している放課後等デイサービス事業所のスタッフと幼児期に利用していた児童発達支援センターの園長と3人で、カオル君のケースについて情報の共有を図った。

そこでは、大きな不安もなく、安定した暮らしを送っているカオル君とその家族に対して、場合によっては利用している放課後等デイサービスの利用日を減らすことになるようなプランを提案してみることにについて（教育委員会が主催の水曜日の午後に実施する放課後子ども教室に、3月中に申し込んだら、1年間参加できる可能性があることがわかった）、どう感じるかという相談支援専門員からの話があった。児童発達支援センターの園長からは、「かえって励みになるし、お父さんもお母さんも喜ぶのじゃないかしら」とのこと。次回会議は、保護者と学校の担任の先生、特別支援教育コーディネーターの先生も交えて実施することとした。

#### ● 2回目の会議（利用計画作成前）

相談支援専門員の呼びかけにより、母親と本人、通っている学校の特別支援学級の担任、2カ所の放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者と担当スタッフ（各々2名）、以前利用していた児童発達支援センターの児童発達支援管理責任者の計9名で会議を開催。特別支援教育コーディネーターは欠席。支援利用計画案の内容を中心に話し合いを行った。

相談支援専門員からは、カオル君が好奇心旺盛で、自分に目を向けてくれる人であれば苦手なタイプや場所は少なく、いろんな体験を積むことが可能なお子さんであることと、母親の就労状況に影響なく、地域の中にカオル君の居場所を増やしていくためのプランである説明があった。その内容については、笑顔でその場に座っていたカオル君にも話しかけながら（一つひとつ「これでいいですか？」と尋ねるたびに、「いいよ！」とは答えてくれた）、特に異論はなく、新たに参加するところへの送迎について話し合った。

#### ● 3回目の会議（利用計画が確定した直後）

結果的には日程の調整がつかなかったため、相談支援専門員が家族・学校・二つの放課後等デイサービス事業所・児童発達支援センターへそれぞれ足を運んで、正式の利用計画を届け、その内容について説明し、了解を得た。放課後等デイサービス事業所においては、個別支援計画作成に向けて、担当者から相談支援専門員に、細かな点での質疑応答があった。

#### ●4回目の会議（個別支援計画の作成前）

放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者からの要請により、会議を実施。相談支援専門員から提案があったことについては、かねてから毎日のように当事業所を利用していることに対して、カオル君のためにもっといいプランはないものかと考えていたため、本来なら3か月後に実施予定のモニタリングを前倒しすることにした。事業所の利用日が減ることにむしろ前向きで、全面的に支援利用計画に沿った内容で取り組んでいきたい意向を示し、会議の開催に至った。

会議の参加者は、カオル君の父親と、特別支援学級の担任と、相談支援専門員、児童発達支援センターの園長、P大学のH准教授、事業所のスタッフ3名の計8名。

# ⑨

## 個別支援計画

### 個別支援計画 その1

子どもの名前 石見カオル 君

作成年月日：令和〇年4月7日

#### ○到達目標

長期（内容、期間等）	b新たに利用していく放課後子ども教室や体操クラブ、アーチェリースクールでのカオル君の姿を実際に見せていただき、当事業所でのカオル君の姿と比べていきながら、カオル君がより関心が高いこと、感じていることについて話し合っていきます。
短期（内容、期間等）	カオル君の生活が少し変わりますが、ご家族にとって負担が増えていかないよう、そのためのお話し合いをしていきます。

#### ○具体的な到達目標及び支援計画等

項目	具体的な到達目標	支援内容（内容・留意点等）	支援期間（頻度・時間・期間等）	サービス提供機関（提供者・担当者）	優先順位
発達課題①	カオル君が興味をもつ内容で、室内での手伝いについて、その工程を見ながら取り組んでいきます。	R 事業所で使っているタオルと雑巾の洗濯(手洗い)をカオル君にやってもらいます(洗濯の工程表を見てやりましょう)。特に雑巾絞り、バケツに水を汲んで所定のところに持っていくことに重点を置いた手伝いをしてもらいます。	週2回 (月・金) 3か月間	曜日ごとの担当のスタッフが中心になり取り組みます。	2
発達課題②	カオル君が撮った写真を印刷したものを切り貼りしていく作品づくりや、パソコンの画面を通して、写真を貼り付けていく絵日記、観察日記に挑戦しましょう。	制作・作品づくりの日には、当分の間はカオル君には、写真を撮り、印刷をして切り貼りすることに誘います。 前日までにカオル君が撮った画像は、何枚かパソコンに取り込んでおきます。その中からカオル君が選んだ画像に、月日とコメントを入れるよう誘っていきます。	週に1回 3か月間 「選べる活動タイム」にパソコンを選んだとき 3か月間	曜日ごとの担当のスタッフが中心になり取り組みます。また木曜日は、〇〇大学から毎週来てくれているさんとパソコンはやってもらいます。	2
発達課題③	カオル君にとってわかりやすく、気持ちの切り替えがしやすい「終了の合図」について、いろいろと試していきます。	これまでのクッキングタイマーを使って知らせたやり方だと、かえって時間が気になって作業等に集中できなくなる場所があるカオル君でした。どのような光や音であれば、びっくりせずに済むのか、気にせずに受止めていけるか、利用しているときの場面の転換のとき、いろいろと試してみます(まずは、電車のアナウンス、電車の警笛を中心に合図を決めていきます)。	利用する 日ごと 3か月間	曜日ごとの担当のスタッフが中心になり取り組みます。 〇〇児童発達支援事業所の鉄道大好きな〇〇さん	3

## 個別支援計画 その2

子どもの名前 石見カオル 君

作成年月日：令和〇年4月7日

○具体的な到達目標及び支援計画等

項目	具体的な到達目標	支援内容（内容・留意点等）	支援期間（頻度・時間・期間等）	サービス提供機関（提供者・担当者）	優先順位
家族支援	利用するところ、出かけるところが増えていきますが、新たなところにカオル君が早く慣れていくためにできることを考えましょう。	これまでのカオル君の様子から考えると、新たに出かけていくところでも喜んで過ごしていけることと思います。可能な限り早いうちに、カオル君が過ごしていくところに行き、当事業所での様子をお伝えしていき、機会をつくっていきます。	カオル君が過ごすところに、まずは1回ずつ訪問します。 6カ月	担当スタッフ 放課後等デイサービス・Rの児童発達支援管理責任者 放課後等デイサービス・M 放課後等子ども教室 〇〇新体操クラブ 〇〇アーチェリースクール	1
発達課題②	地域の中で多くの人の中でカオル君が育っていくことを実感してもらおうでも、カオル君のことを地域の方々にお話する機会をつくれます。	〇〇市には自立支援協議会という活動の中に子ども部会がありますが、半年に一度はカオル君のことをお話していく機会をもちます（事前にお話していく内容は石見さんと話し合っていきます）。	〇月と〇月の第2火曜13:30～の子ども部会のときに、カオル君のことをお話する予定です。 1年	上記の機関の方は先の日程はお知らせし、その他、〇〇市社会福祉協議会 Mさん 〇〇市児童交流センター Hさん 〇〇市〇町公民館 Y館長 (株)子どもの広場 代表 Sさんにも呼びかけます。	4

総合的な支援方針	カオル君の興味は広がり、この1年の成長は目を見張るものがあります。新たに挑戦させていくことも含めて、カオル君のためにどんな生活を考えていったほうがよいか、いろいろな意見を集めてみたいものです。そうした中で、R事業所でできること、家庭でできること、学校でできること、その他の場でできることを、一緒に考えていきましょう。
----------	--

令和〇年4月10日 利用者氏名 石見〇〇 印

児童発達支援管理責任者 〇〇〇〇 印

## ⑩ モニタリングの視点（本人と環境の変化に留意して）

本事例は、両親としてはこれまで利用してきた福祉サービスの内容で十分と考えている中で、カオル君の様子から、相談支援専門員がある意味で主観的に「子どものニーズ」として、新たな選択肢を提案していった支援利用計画であった。それだけに、家族にとって負担が増していないかどうか、特に母親の就労状況とカオル君の兄にストレスがかかっていないかを丁寧に聞き取っていききたい。さらに、新たに紹介をした教育委員会主催の放課後子ども教室での状況と、その送迎に無理はなかったかどうかをしっかりと確認していききたい。

また、地域の子どもたちのクラブである新体操クラブやアーチェリースクールでのカオル君の様子をみた後に、そのスタッフから困っていることや不安なことがないかを聞き取り、状況に応じて直ちに対応していくよう心がけたい。もちろん、相談支援専門員の思いが先走り、ニーズを誤って解釈していないか、時間をかけて吟味していくことが重要である。

## ⑪ まとめ

本事例は、元々は家族と学校と放課後等デイサービス事業所が、ある程度は連携して、安定した生活を提供できていたケースである。誰かが現状に不満をもっていたわけではなく、変更を求める訴えが明確に出ていたわけでもない。

相談支援専門員がこの子どもに出会って強く感じたのは、もっと地域との結びつきをもてる子どもであるということと、家族がもっている力がまだまだ発揮できていないということであった。特別な子どもだから、よく理解している人に見守ってもらうことがベターであると、両親ともどこかで感じているのかもしれないと感じたため、まずは他に選択肢があることを示していくことに重点を置いた。それは、カオル君が、「将来地域で生きていく力をつけていくために！」といったテーマを掲げた中での選択肢でもあり、カオル君を通して地域づくりに努めていくための第一歩とするためのものでもあった。

また、カオル君自身はいろいろなものをつくることに関心があり、見て理解できるような工程表などがあると、より集中して取り組んでいくような力をもっていることや、電車をはじめ関心があることについては、かなり細かいことまで情報を取り入れていくことができるような力をもっている。さらに、ほかの子どものやっていることを見て、まねようとすることも多く、見本となるような刺激が多すぎると混乱してしまうタイプでもないことから、これまで以上に視覚的な支援を深める意味で、適切な交流の機会を見つけていくことは、カオル君の発達支援の視点からも重視していききたい。支援のやり方によってはかなり伸びしろのある子どもである。

## ⑫ 地域づくりのポイント

相談支援専門員としては、地域のダンススクールの先生やサッカーチームのコーチ、公民館の文化教室の先生といった方々が参加する自立支援協議会お部会活動を丁寧に行っていくことは、転勤でいなくなってしまう学校の先生との連携により、子どもたちのためには重要になることも多いと考えているところである。

結果的にこれまで以上に関係機関の連携が深まったが、相談支援専門員としては、スタートラインに立てただけとしか考えていない。カオル君が、将来かかわるかもしれない人たちとの結びつき、長期的に接点をもつかもしれない地域の方との出会いを、さまざまな発想と視点から展開していくことが大切である。障害をもっている、地域に居場所があること、地域で活躍できる場所があることといった点は、多くのケースでの地域課題となる部分であり、一人ひとりのケースを通じて、自立支援協議会を中止に話し合っていきたいところである。